

◇反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」暴動・人物伝◇

◇◇◇バンコク・タイ国内最新情報◇政治編◇◇◇

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ①

※プミポン・アドゥンヤデート国王 H.M. Bhumibol Adulyadej



写真提供：タイ王室事務局

1927年12月5日(月)米国マサチューセッツ州ケンブリッジ生まれ。父は現王朝の中興の祖で5代目。チュラロンコン大王の数多い息子の1人だったマヒドン皇太子、母は中国系の一般女性。タイの絶対王政を廃した1932年の立憲革命とその後の第2次世界大戦の影響で、1934年から1952年まで主にスイスに滞在し、同国のローザンヌ大学で政治学、法学などを学んだ。スイスで共に暮らした兄が8代目の王に即位した直後に変死したため、1946年に9代目の王に即位。タイ帰国後は全国で数千の農業プロジェクトを手がけ、遠隔地の視察、低農薬農業や代替燃料の開発にも取り組んだ。王室の再興にも力を尽くし、王室の儀礼・用語の復活、資金力回復を成し遂げた。米経済誌フォーブスがまとめた2008年の世界の王族資産番付では、推定資産350億ドルと、産油国の王族を退け、1位に輝いた。タイ外務省はフォーブスに資産内容・額が事実と異なるとして反論。「微笑みの国」と呼ばれるタイの国王でありながらほとんど笑顔を見せず、峻厳なイメージがある。一方、社会的弱者の救済に熱心とされ、国民からは「ポー(お父さん)」と呼ばれ、国父として深く敬愛されている。

英語の評伝が2冊あるが、いずれもタイでは発禁。

1950年に結婚した王族のシリキット王妃との間に、

ワチラロンコン皇太子、ウボンラット王女、シリントン王女、チュラポン王女の1男3女。

<http://www.thaiembassy.jp/thailand/j-king.htm> < 在京タイ王国大使館

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ②

※プレム・ティンスラーノン枢密院議長(元首相、元陸軍司令官・89)

Gen Prem Tinsulanon



プレム枢密院議長 (右端)



8月26日はプレム枢密院議長の誕生日。

1920年8月26日南部ソクラー生まれ。1978—1980年、陸軍司令官。1980—1988年、首相。プレム政権はプミポン国王、軍、政党の支持を受けたプレム氏が非議員のまま国政を担当し、「半分の民主主義」と呼ばれた。プレム氏は首相退任後、国王から枢密顧問官に任命されるとともに、「ラタブット(国家功労者)」の称号を受けた。1998年から枢密院議長。プレム氏の誕生日前には例年、軍・警察の最高幹部が議長宅を祝賀に訪れる。2009年は反タクシン派政権の発足で、アピシット首相と閣僚一同も議長宅を訪れた。一方、2006年のクーデターで政権を追われたタクシン元首相はプレム議長を「クーデターの黒幕」「スーパーパワー」などと呼び、「二重政権状態を作り出した」と批判している。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」 vs. タイ政府・人物伝 ③

※アピシット・ウェーチャチーワ首相 Abhisit Vejjajiva



<アピシット・ウェーチャチーワ首相>

1964年8月、英ニューカッスル生まれ。英オックスフォード大学に進み、哲学、政治学、経済学を学んだ。タイ人で2人目の首席で卒業後、同大学で経済学修士号を取得。帰国後、国立タマサート大学講師。1992年から下院連続当選政界入り。1995—1997年タイ民主党報道官、1997—2001年首相府相、2005年からタイ民主党党首。2008年末の政変で首相に就任。

妻でタイ国立チュロンコン大学数学講師のピムペンさんとの間に1男1女。両親はともに医者で、父親は副保健相、国立マヒドン大学学長を務めた。姉は医師、妹は2006年度東南アジア文学賞を受賞した作家。ウェーチャチーワ家の先祖は18世紀にタイに移民した「袁」姓の客家系中国人。

※ステーブ・トゥアクスバン副首相 Suthep Thaugsuban



<ステーブ・トゥアクスバン>

1949年生まれ。米ミッドルテネシー州立大学政治学修士。下院当選10回。農相(1986—1988年、1992—1994年)、運輸通信相(1997—2000)などを歴任。2005年から民主党幹事長。豪腕型の実力者。昨年12月政変ではタクシン派与党陣営の切り崩しに成功し、アピシット政権発足の立役者となった。1995年に当時のチュアン民主党政権が崩壊したのは土地改革をめぐるステーブ氏の汚職疑惑が原因。株式所有規程違反で下院議員を失職する可能性が強まっていたタイのステーブ副首相が2009年7月17日議員辞職を発表。閣僚辞任はしない。先手を打って議員辞職し、問題が大きくなることを避けた。政府の対策本部の責任者。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ④

※バンハーン元首相(旧チャート・タイ党党首) Banharn Silpa-archa



〈バンハーン元首相〉

連立第二党のチャート・タイ・パッターナー党の事実上の前身政党である旧チャート・タイ党党首
1932年8月19日生まれ、中国移民の息子に生まれた。タイ王国の政治家、実業家。首相を務めた。多額の資産で政界で影響力を行使したことから、「歩くATM」という異名。資産は33億6900万バーツ。地元のスパンブリー県で建設業、セメント工場、印刷工場、石油化学工場等を経営して財産を築いた。チャートチャーイらが設立した国民党に参加し、1976年にスパンブリー県選出の下院議員となる。1980年から農業相、運輸通信相、工業相、財務相、内務相を歴任、1994年に国民党党首となる。1995年7月の総選挙で国民党は第一党となり、バンハーンは7党連立政権の首相に就任する。経済の停滞や度重なる汚職疑惑により国民の支持を失い、1996年9月に内閣不信任決議案審議の後、解散総選挙に追い込まれ、選挙後、チャワリット内閣に政権の座を譲った。首相辞任後も国民党党首を引き続き務めたが、2008年12月にタイ憲法裁判所から選挙違反で国民党解党命令を受け、5年間の参政権の停止の措置を受けた。自宅前では3月末に手りゅう弾が爆発。4月25日夜、自宅(ジャランサニットウォン通り)前で手りゅう弾が爆発。通行人、警官ら11人が負傷。

※ネーウィン・チットチョープ(プームチャイ・タイ党) Newin Chidchob



プームチャイ・タイ党ネーウィン・チットチョープ

1958年生まれ。タイ国立ラーチャパット大学プリラム校卒。1986年以来、下院に連続当選。所属政党はほぼ毎回異なる。1995年副財務相、1997年副農業・協同組合相、2002年副商務相(第1次タクシン政権)、2005年の総選挙前にチャートタイ党からタクシン派タイラックタイ党(TRT)に移籍、2005年首相府相。2006年のクーデターでTRTが解党され、5年間の公民権停止処分を受けた。スキャンダルが絶えない一方、豪腕型で実行力があるという評価。父は東北部プリラム県で採石場などのビジネスを手がける実業家・政治家のチャイ氏(現下院議長)。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ⑤

※スクムパン・ポリパット・首都圏政庁長官(バンコク知事) Sukhumbhand Paribatra



バンコク都庁の象の前で

2009年1月11日バンコク都知事。元副外相(99/05/15)。元民主党副幹事長。王族。
タイ政府とは異なった立場で「スアデン」に対応。騒乱後クリーンデー主催し被災地域清掃に都民が参加。

※アピラック・コーサヨーティン(前バンコク都知事) Apirak Kosayothin



第15代バンコク都知事・ー2008年11月20日(木)辞任

バンコク都庁の消防車購入汚職疑惑で11月11日起訴、翌12日、辞意を表明。

アピラックは1961年にエンジニアの父と教員の母との間に生まれる。

チエンマイ大学卒業後、ハーバード大学・ビジネス・スクール卒業。ピザハットのアシスタントマネージャー後、タイ国内最大手のGMM グラミー、携帯電話TA オレンジ(現 True Move)などのCEOを歴任。

2004年に行われたバンコクの総選挙では野党、民主党の後援を受け立候補。

バンコク市民の与党嫌いの風潮を反映し、同年8月28日の選挙では30万票の差を付け圧勝した。

今回はバンコク被災者の対応(レインボー・プロジェクト)役として活躍している。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」 vs. タイ政府・人物伝 ⑥

※アヌボン・パオチンダー—陸軍司令官 Gen. Anupong Paojinda



<アヌボン・パオチンダー—陸軍司令官>

アヌボン氏はバンコクに本部を置く第1管区の司令官として、クーデターに参加。タクシン前首相と予備士官学校で同期だったが、一線を画し、スラユット暫定首相ら陸軍OBの信任が厚いとされる。アピシット首相は5月16日夜、テレビ演説し、タクシン元首相派の群衆と軍が衝突で多数の死傷者を出した、4月10日の騒乱は「群衆に紛れ込んだテロリストが誘発した」と強調、その摘発のためとして政府の対策本部の責任者をステーブ副首相からアヌボン陸軍司令官に交代することを行った。

※サムサーン・ケウカムナード—軍報道官(タイ政府緊急事態回復センター)

Col Sansern Kaewkamnerd



Col Sansern Kaewkamnerd, the spokesman of the Emergency Operations Command, 政府・国内安全保障法(非常事態宣言)や「夜間外出禁止令」(Curfew)発令後の軍報道担当。タイ女性の間で人気沸騰したが既婚。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ⑦

反独裁民主戦線「赤シャツ(スアデン)」

the United Front of Democracy against Dictatorship(UDD)



※カティヤ陸軍少将(58)Gen. Khattiya Sawasdipo aka She Dang - 5月13日(木)没



「赤い司令官」と呼ばれた、UDD最強・強硬派。 Reuters 救急車に運ばれるカティヤ陸軍少将(13日) 政府と軍部は、「テロリスト」であり、過去数週間の赤シャツ派の暴力のほとんどを組織した人物だとしていた。タクシン元首相派で過激な言動で知られるカティヤ陸軍少将がホームページでプレム議長ら政財官界の53人・団体を「標的」として挙げていたことが明らかになった。名前が挙がっていたのは、プレム枢密院議長(元首相、元陸軍司令官)、アピシット首相、ステープ副首相、カシット外相、アヌポン陸軍司令官、アピチャート選挙委員会委員長、ジャラン最高裁判所判事、反タクシン派団体「民主主義のための市民同盟(PAD)」創設者で新聞大手プージャッカーン創業者ソントィ氏、PAD幹部ジャムロン元バンコク都知事、ネーウィン元首相府相、新興仏教教団サンティアソークの創設者ポーティラック氏ら。UDD 集会終結後等の反政府破壊行為で使用された、M16 や M79 は同氏から流失したとみられている。

チュラロンコン病院前の路上で報道陣のインタビューを受けていた際、銃撃で右こめかみからのどを貫通する傷を負い、その場に崩れ落ちた。目を見開いて意識不明の少将はすぐにワチラ病院に搬送された。もっと詳しく見たい方は Darkness of ASIA-アジアの間。

http://darknessofasia.blogspot.com/2010/05/blog-post_14.html

＜ YouTube で動画が見れます。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ⑧

※ジャトゥボン下院議員 : スアデンの下院議員



下院では、いつもアピシット首相を罵倒。もっと詳しく見たい方は

<http://tweetphoto.com/16925884>

※ナタウト・サイグルア Nattawut Saikua



【タイの英字紙ネーションより】

午後 1 時 15 分頃

赤シャツ・リーダーのジャトゥボン氏がラチャプラソン交差点壇上に上がり、更なる死者を出すことを避けるため、赤シャツのデモ集会を散会することを宣言した。

ジャトゥボン氏は、UDD(赤シャツ軍団)ならびに政治的イデオロギーを放棄しないことを訴え、赤シャツの多くの命を守るため、自分自身が犠牲になると話した。

ナタウト氏もまた、今がデモ集会を散会するときだと話し、いつかの闘いのために熱意と決意を持ち続けるよう促した。ジャトゥボン氏と同様、多くの支持者の命を助けるため、幹部が自由を犠牲にすると話している。そして、ナタウト氏は、赤シャツにデモ会場を立ち去るように伝え、国立競技場方面に向かうよう指示した。

国立競技場では、政府が退去する赤シャツ支持者のためにバスを用意した。

午後 1 時 40 分

UDD の幹部らが、ラチャプラソン交差点のデモ会場に隣接するラマ 1 世通りのタイ国家警察に出頭。

ジャトゥボン氏、ナタウト氏、クワンチャイ氏、ニシット氏らの姿を確認。

アドゥル副国家警察長官が、警察本部まで幹部らを連行。出頭する前、ナタウト氏は、自分を含めた幹部らは安全の声明をし、デモ参加者には安心して家に帰るよう促した

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ⑨

※ヴィーラ・ムシガポン(スアデン最高幹部) Veera Musigapong



※アリサマン(アリスマン)・(スアデン幹部) Arisaman Pongruangrong :



アリサマン(アリスマン)脱出シーン

元国民的人気歌手でタクシン元首相派団体「反独裁民主戦線(UDD)」幹部のアリサマン(アリスマン)が「007張りの脱出劇」として4月16日朝、宿泊先のバンコク都内のホテルに踏み込んできた警察からUDD支持者の助けを借りてベランダからロープを伝って脱出。脱出時の映像や写真が大々的に流された。逮捕状が出ていたほかの幹部らも同様に脱出。踏み込んだ警官2人がUDD支持者に拘束された。2009年4月パタヤ市でのASEAN関連首脳会議で、会議開催ホテルの乱入指揮として逮捕状発行。以後歌手生命を絶たれている。今回の騒ぎでも逮捕状が出ているが、UDD支持者に常に守られている。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ⑩

※タクシン・シナワット・元首相 (61) Ex-PM Thaksin Shinawatra



タクシン一家・タクシン氏(右から2番目)

1949年7月27日タイ北部チェンマイ生まれの客家系華人。中国名・丘達新。警察士官学校を卒業後、米国に国費留学。刑法学博士取得。帰国後、警察に勤務するかたわら、官公庁へのコンピュータ・リース、不動産開発などを手がけ、1987年に警察中佐で退職。

その後、携帯電話サービス、通信衛星を展開するタイ通信最大手シン・グループを運営。

1995年に政界に転じ、1998年にタイラックタイ(タイ人はタイ人を愛する)党を創設。

地方、貧困層へのバラマキ政策を掲げ2001年の総選挙で大勝し首相。2005年2月の総選挙も圧勝、首相に再選、保守派との対立から、2006年9月の軍事クーデターで失脚し、公職追放処分を受けた。

2007年末の総選挙でタクシン派が勝利したため、2008年2月に帰国。8月に出国し、不在中の10月、首相在任中に妻が国有地を競売で購入したことで懲役2年の実刑判決。その後はタイに帰国せず。

タクシン派与党は2008年12月に選挙違反で解党され、タクシン派政権からネーウィン元首相府相派と中小連立4党が野党・民主党に寝返り、民主党連立政権が誕生した。

シナワット家のタイ国内の資産約760億バーツは凍結、裁判で一部没収され今回の暴動の起因となった。

タイの隣国のカンボジアは10月、タクシン氏を政府の経済顧問に任命。これを受け、タクシン氏は11月10—14日にカンボジアを訪問。タイ政府はタクシン氏の身柄引き渡しをカンボジア政府に要求したが、カンボジア側は「タクシン氏は政治犯」だとして拒否。

こうした事態を受け、両国は相互に大使を召還、一等書記官を国外退去処分にし亀裂を深めている。

タクシン氏はまた、カンボジア入り直前に英タイムズ紙のインタビューに応じ、タイの立憲君主制の問題に踏み込む発言も行い、タイ国内で強い反発を招いている。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ⑪

※チャワリット元首相(タクシン派野党プアタイ党顧問) Gen Chavalit Yongchaiyudh



記者会見するプアタイ党幹部・(中央)

チャワリット・ヨンチャイユット元首相(77)タクシン元首相派の野党プアタイのバンコク本部を訪れ入党。入党理由を「(タクシン派と現政権など反タクシン派の)団結に向けた調停のため」と話している。1980年代のプレム政権で陸軍参謀長、陸軍司令官などを歴任。1990年に退役後、政界入りし、1996—1997年首相。首相在任中にタクシン氏を副首相として入閣させたほか、2001年に発足したタクシン政権で副首相兼国防相、2008年のタクシン派ソムチャーイ政権で副首相。タクシン氏、タクシン氏の政敵であるプレム枢密院議長(元首相、元陸軍司令官)の双方とつながりがある。5月16日(日)プアタイ(タクシン派政党)本部に「スアデン別働隊」訪問時には国外逃亡。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」vs. タイ政府・人物伝 ⑫

反タクシン元首相派団体「民主主義のための市民同盟」 The People's Alliance for Democracy (PAD)



ソンティ氏(左から2人目)とジャムロン氏(3人目)

□PADの実態は？

PADはタクシン氏の権力拡大を危ぐした伝統的な権力層と、同氏に私怨を抱くソンティ氏ら実業家が組み、王党派の市民、民営化を嫌う国営企業労組など、タクシン氏に反発する勢力を糾合したとみられる。政党政治や完全な民主主義に批判的で、任命制国会議員の増員などを提案したが、これは組織の背後にいる伝統的な権力層の意向を反映したものとみられる。タイ王室の支持を受けていると主張し、シンボルカラーはプミボン国王の誕生日の色である黄色。

昨年10月にPADのデモ隊が国会議事堂周辺で警官隊と衝突し、メンバーの女性が死亡した際には、シリキット王妃が葬儀を主宰した。ソンティ氏らPAD幹部は首相府や空港の占拠などで取り調べを受けているが、訴追の動きは鈍い。

※ジャムロン・シームアン元バンコク都知事(PAD 最高幹部)

Major General Chamlong Srimuang



ジャムロン元バンコク都知事(写真右)

ジャムロン元バンコク都知事は中堅政党党首の座をタクシン氏に譲るなど、同氏の政界入りを手助けした。しかしタクシン政権発足後、重用されなかったことなどから、反タクシンに転じたという見方もある。ジャムロン氏はプレム氏の元秘書。

●反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」 vs. タイ政府・人物伝 ⑬

※ソンティ・リムトーンクン(PAD 創設者で大手新聞創業者) Sondhi Limthongkul



「我々は国王陛下のために戦う」とプリントされたTシャツを着たソンティ氏
反タクシンの旗振り役、83年にタイ字紙プー ジャッカーンを創刊。

タイ経済紙のトップに育て、90年にマネジャー・メディア・グループ(MGR)をタイ証券取引所(SET)に上場。
反タクシン元首相派団体「民主主義のための市民同盟(PAD)」が6月設立した政党「新政治党」は、
暫定党首に代わる正式な党首にPAD創設者で実業家のソンティ・リムトーンクン氏を選出。
PADはデモ隊によるスワンナプーム空港やタイ首相府の占拠などでタイの政局を大きく揺るがしてきたが、
政党となることで法治・民主主義の枠組み内に入るとみられ、与野党はともに歓迎の意向を示している。
ただ、ソンティ氏に次ぐPADの看板であるジャムロン元バンコク都知事は新政治党に参加しておらず、
状況次第ではジャムロン氏がPADを動員し街頭デモに打って出るという選択肢を残したもようだ。

〈ソンティ・リムトーンクン氏とPAD〉

□中国国民党員の息子

ソンティ氏の父親は中国・潮州からタイに移民した元中国国民党員で、中華街で中国語の印刷事業などを手がけた。

ソンティ氏は1947年生まれ。中国名・林明達。アサンプション大学(ABAC)付属校シラチャー校を卒業。
台湾で中国語を勉強、後に米国の大学に留学した。1973年に帰国し、新聞編集者・発行などを経て、
1983年にタイ字紙プー ジャッカーンを創刊。同紙をタイ字経済紙のトップに育て上げ、1990年に発行元の
マネジャー・メディア・グループ(MGR)をタイ証券取引所(SET)に上場した。

□インターナショナル・エンジニアリング(IEC)を買収

携帯電話販売 IEC 未公開株の17.5%をタクシン・シナワット氏に譲渡、1992年に同社もSETに上場。
タクシン氏は10パーツで買ったIEC株を上場後、250パーツで全株売却し、6億—7億パーツの利益を得たとされる。

ロタクシン氏との蜜月時代

MGRはさらに、通信衛星、携帯電話サービス、英字紙(アジアタイムズ)へと事業展開を図ったが、1997年のアジア経済危機で経営破たん、経営再建を図ったもの、2008年11月に破産宣告を受けた。MGRの新聞、雑誌はソンティ氏らが経営する反タクシン派ケーブルテレビ局傘下に収まり、「ASTV」ブランドで発行を続けている。

ソンティ氏とタクシン政権は同政権で副首相、財務相、商務相などを務めたソムキッド氏が1990年代にプージャッカーンにコラムを連載していたほか、タクシン元首相の有カブレーンであるパンサック元首相顧問がアジアタイムズの編集長を務めるなど、人脈面でつながりが深い。

元首相の旧友であるタノン元財務相はABACシラチャー校でソンティ氏と同級生だった。

こうした関係からか、MGRは2001年の下院総選挙で全社を挙げてタクシン派政党を支持。タクシン政権が発足すると、MGRの関係会社社長だったカノク・アピラディー氏がタイ国際航空の社長、ソンティ氏と親しい銀行家のウィロート・ヌアンケー氏が国営クルンタイ銀行(KTB)の社長になった。KTBはウィロート社長の下、MGRに対する債権16億バーツを放棄した。

ロタクシン政権追放の急先鋒に

2004年にウィロート社長、2005年にカノク社長が解任されると、ソンティ氏は強硬な反タクシン派に転じ、自らがホスト役を務めるテレビ局チャンネル9の人気トーク番組で、政権の汚職、権力乱用を激しく批判。2005年9月に同番組が打ち切られると、バンコク都内のルムピニ公園での野外トークショーとして継続し、ネットやケーブルテレビを通じ配信を続け、活動を強化するため結成した反タクシン派団体「民主主義のための市民同盟(PAD)」にジャムロン元バンコク都知事らが合流、バンコク都内で大規模な抗議集会を連続開催し、2006年9月の軍事クーデターを呼び込んだ。

2007年末に行われた民政移管のための総選挙でタクシン派が勝利、政権に復帰したことを受け、PADは2008年5月に活動を再開。2008年8月から年末まで首相官邸・タイ首相府を数千人で占拠。11月下旬からはバンコクの2空港も占拠し、タイの空路交通を遮断。空港占拠中に憲法裁判所がタクシン派与党を解党、政権が野党民主党に移ったことから活動を停止した。今年6月に「新政治党」を政党登録し、表舞台への復帰に動き始めている。

ロソンティ氏暗殺未遂



ロソソティ氏暗殺未遂

ソソティ氏は 2009 年 4 月、乗用車でバンコク都内を移動中、数台のピックアップトラックから発砲され、銃弾の破片が頭に刺さり負傷。銃弾はタイ陸軍のもので襲撃に使用されたとみられるピックアップトラックが中部ロソソブリ県の陸軍基地で見つかっている。この事件でソソティ氏はシリキット王妃が後援する軍人・警官・国境自警団員慰安財団事務局長のタンブーイン(高位女性の称号)・ウイラヤー・チャワクン氏、プラウイット国防相(元陸軍司令官)、アヌボン陸軍司令官の名前を挙げ、「3人が今回の暗殺未遂に関与したとは個人的には信じていないが、万が一そうだとしても、恐れていない」と述べた。ウイラヤー氏はソソティ氏の発言について、「真実ではないので気にしていない」とコメントしている。

◎タイ政府が「スアデン」を排除し、カティヤ陸軍少将を銃撃する決断を迫られた映像です。

4:24 から見てください。> 子供を楯にしてタイヤを設置し放火していました。

17MAY10 THAILAND ;2of3; Hot News at 9 PM ; Statement of the Directed Center for Disentangling an

<http://www.youtube.com/watch?v=i1u82SMZrB4&feature=related> < YouTube で動画が見れます。

◎タイ芸能人が反独裁民主戦線(UDD)「赤シャツ(スアデン)」暴動の被災地を背景に救援・復興の願いを込めて、平和と幸福について歌います。画像で被災地が一覧可能。

KHO KWAM SUK KAEN GRUB MA (MCOT)

<http://variety.mcot.net/thai/> << YouTube で動画が見れます。

○メールマガジン・特別号で「赤シャツ(スアデン)」暴動・人物伝を作成しました○

★*:°☆。*:°★°'.*:。*: *:°☆。*:°★°'.°★°'.★

中村不動産・Sukhumvit Soi39 (Fuji Supermarket 2. 3F)

TEL 0-2662-2940~1 info@n-inter.co.th (Real Estate)

FAX 0-2662-2944 Website <http://www.n-inter.co.th>

★*:°☆。*:°★°'.*:。*: *:°☆。*:°★°'.°★°'.★

Copyright(c)2010 Nakamura International Co., Ltd. All Right Reserved.

写真の一部は、THE NATION PHOTO GALLERY/ASTV /newsclip.be から転用いたしました。

本文は作成者の承諾なく、無断転用を禁じます。